

災害派遣職員レポート

No.4 1 H 2 3.7.1 4

陸前高田で活動していた えびな北高齢者施設 藤村補佐より昨日の報告です。

藤村・福田組は、本日帰ってくる予定です。今晚は、久しぶりの我が家で、ゆっくりくつろいでほしいと思います。短い文章ですが、藤村補佐の気持ちが伝わってきます。

また、交代として、一昨日から、えびな北訪問係の涌井職員、中心荘の對木職員が岩手に入りました。この二人にしっかり引き継いでくれたことと思います。

本日、藤村・福田チーム活動終了しました。

いろいろ悩みながらでしたが、今日引き揚げる際に「絆だなんだ言うけれども、あんた達には同情でなく愛情を感じたよ。ありがとう。」と言葉を頂き心底来てよかった、と二人で喜びました。後は後任の2人に託します。

また送りだしてくれた介護課メンバーに感謝します。

災害派遣職員レポート

No.4 2 H 2 3.7.1 8

陸前高田で活動している 中心荘 眞榮田職員の報告

陸前高田市の避難所への派遣も残りわずかになりました。

今回活動させて頂くにあたり、少しでも皆さんがスムーズに仮設住宅へ移ることが出来るようにすることを目標に活動しました。避難所の方々が頑張っているのでも何かやってあげたいという気持ちはありましたが、私達が居なくなって生活が困難になってしまっただけでは自己満足になってしまいます。

現在も高齢者のいる視聴覚室には3世帯5人の方が生活しています。出来れば中心会からこの避難所への最後の派遣になる私がいる間に皆さん仮設へ移ることが出来ればと考えていたのですが・・・。

前回の報告以降は2世帯が仮設が決まっただけで、残りの1世帯（2人）が仮設も決まらず、皆さん引っ越しはもう少し先になりそうです。

この避難所自体、今月での閉鎖が決まり、体育館での避難者も数日前に100人を切ったと報告がありました。そんな中、自分達は何故仮設が当たらないのか？仮設での生活は大丈夫だろうか？など、不安や不満は膨らんでいるようです。

私達に出来ることは話し相手になり不安を少しでも和らげあげること。在宅で夫の介護をしなければならぬ方へ負担を少しでも軽く出来るように、介護職員としてアドバイスをしたりすることでした。ベッドのセッティング方法について写真を使い解説書を作りお渡ししたり、衣服の着脱を一緒に練習したり、必要な福祉用具を揃えたりしました。

残された期間はわずかですが最後まで、自分が出来ることを精一杯がんばりたいと思います。今回の支援活動で「前向きに頑張ることの大切さ」「行動している沢山の方がいること」を、学ぶことが出来ました。私の人生で貴重な半月間になりました。

三浦副所長より

避難所の方たちが仮設へ移っても、なるべく不安なく、自立して生活が続けられるように、いろいろ考えて、行動してくれました。自分は何のために来たのかを理解してくれているからこそです。体調不良なく、無事に終えることができそうです。

今まで支援して下さった中心会職員、それを引き継いで最後の活動となった眞榮田さん、それから、派遣に行っている留守を守ってきた職員の皆さんに感謝です。

陸前高田竹駒地区で活動中の 中心荘 對木職員の報告

こんばんわ。活動報告をさせていただきます。

青空サロンには、ご高齢の方が来られることが多いですが、昨日・今日と、学校が休みのため、子供が多く来られます。子供達はとても元気で、コチラが持ってきた輪投げや竹トンボ、自分で持ってきたボールでミニ野球をやったりと、走り回ってます。

今日は、日差しが強く、気温も大分高かったので、運動している子達を日陰に招き、水分補給をこまめに促しました。あまり動かない折り紙やお絵かきといった遊びに切り替えることで、日向にあまりでることなく、テント内で新聞紙を使って工作や自分で持ってきたベイブレードなど、あまり動かない遊びをしていました。終わりが近くなると「もっと遊びたい～」と言ってくれるので、子供たちに喜んで貰えているんだと、とても嬉しく、元気を貰えます。

2度目の報告になります。今日は、社協の帰りに、陸前松原の「奇跡の松」を見て帰りました。一本松を見に行くまでの道のり、海に近いという事もあり、四階まで窓が割れて無くなり中も何も無い、又はグチャグチャになっているアパート。瓦礫の山。土台はあるが家がない開けた土地ばかりでした。あまりの光景に呆然となりました。

私の日常で見かけるものが、グチャグチャの無惨な姿になっているのを見て、自然は、こんな簡単に人の作ったものを壊してしまうと思うと、ゾッとしました。

また、こんな事になるだなんて想像せず、人生を含めて一変してしまった人たちは、自分に想像以上であると思うが、瓦礫の山や壊れたアパートを見ると、なんとはいかかわりませんが、涙が溢れそうになりそうな気持ちになりました。

携帯で撮ったので、あまり画像がよくありませんが、写真を添付します。

あまり上手い言い回しが出来ませんでスママセン。

これからも皆さんに信用して貰えるくらい頑張っていきます。



理事長より

サロンにやってくる子どもたちが、同じ地域に暮らす高齢者などの要支援者に、ふつうに関心を持ってくれるようになると良いですね。子どもたちによる「お年寄り訪問」などができると面白いのでは？

災害派遣職員レポート

No.43 H23.7.22

陸前高田竹駒地区で活動している 中心荘 對木職員の報告

こんばんわ、活動報告をさせていただきます。

今日は、午前中は天気が曇りであり気温が上がらず寒かったのですが、午後からは陽が出てきて暖かくなりました。

午後に、気温の変化による体調不良はないか・仮設住宅に不満や必要なモノはないかを伺いながら巡回をしました。

一人の利用者さんが、「ボランティアさんが棚を作ってくれたのは嬉しいが、高くて届かないがあるので、30cmくらいの台が欲しい」とおっしゃいました。このことは、ミーティングにて社協さんに報告しました。前回の報告から遅くなってしまい、スイマセンでした。

三浦副所長より

報告ありがとうございます。台風の影響で天候が悪く気温が大分下がりましたね。でも仮設の方々や支援活動している方々には影響がないようですね。

仮設住宅はあくまでも仮の住まいなので、不便や不足が多いと思います。おそらく我慢してしまっていることもあるのでは？小さなことでも、拾い上げて、実現に向けて動いてあげてください。聞いてさしあげるだけでも十分な場合もありますので。自分が施設で支援していて、また自分が生活したとしたら…そんな視点でお願いしますね。

緊張は取れましたか？對木さんなら笑顔で行けば大丈夫です。涌井さんと共に引き続きよろしくをお願いしますね。

陸前高田竹駒地区で活動中の えびな北 涌井職員の報告

お疲れ様です。先日お送りしたと思っていた、メールですが…モバイル通信の調子が悪かったのか、送られていなかったようです。すみません。今回のメールで合わせての報告となりますが、よろしくをお願いします。

12日、今回ペアを組む對木君とそれぞれ盛岡入りして、盛岡のホテルで顔合わせをしました。岩手に向かって進む新幹線から見る車窓は、一見なんとも内容に見えても、福島を過ぎると段々と屋根にビニールシートの乗っている家が増えてきました。震災で屋根瓦が落ちてしまったそうです。屋根を修理したくても大工さんの人数が足りないのか、待ちの状態みたいです。

13日予定時刻の7:30にもりおかのホテルを出発し、約120キロ レンタカーを走らせて10:20陸前高田入りしました。

陸前高田社協に入ると、すぐに前任の藤村補佐・福田さんが戻ってきて引き継ぎと周辺の案内をしてくれました。仮設の陸前高田市役所、仮設のローソン、陸前高田第一中学校、絆の丘にも連れて行ってもらいました。

藤村補佐と福田さんが「西さんから教わった、とっておきの場所」として教えてくれた、高台の陸前高田第一中学校のグラウンドの端から見た光景。眼下にあるはずの家や建物が「瓦礫」として、うず高く積まれる光景。ガタガタと音を立てながら、瓦礫を片付けていく重機達。何度もテレビで見ていたのに、覚悟して行ったはずなのに、自分の呼吸が早くなり鼓動が波を打つのが感じました。この中に、これから出会う人達の生活が、たくさんの人たちの生活があったんだ。この瓦礫と、鉄くずとなってしまった車の中に数えきれないほどの命があったんだと思うと、あふれる涙を抑えるのに必死でした。でも、その光景を見ながら「見ず知らずの私が、泣いて何になるのだろうか？私に課せられたことは、泣くことじゃなく他にあるのでは？」そう感じていました。

最後に竹駒小の一角をお借りしている青空サロンに到着し、サロンの引き継ぎを終えると、藤村補佐と福田さんが、サロンのご利用者さんと別れを惜しむ姿や、「せめてこれもってけ！」とプレゼントを渡されている姿を見て、私も2週間後こんな風になれるだろうか？と不安になりましたが、お二人を追いかけるのではなく、自分なりの性一杯をやってみようと自分を奮い立たせていました。

そこからは毎日が早く、一関に宿泊している間は5:30に起きて身支度と朝食を済ませ、7:30にホテルを出発。陸前高田市役所に広報などを取りに行きながら8:30に市社協入り。すぐにサロンの準備、ミーティング、サロンの運営、とあっという間に一日が過ぎてしまいます。15:00にサロンを閉めて、市社協へ戻り報告書を作成しています。

サロン自体は、かなり定着化しているのでサロンオープンの10時になると皆さんが集まってくるくださいます。最近、近くの部落の町内会長さんが切り絵の教室（自由参加）をして下さったり、私たちに普段の話や津波の時の状況をお話しして下さっています。時々、現状の不満や要望、なども出てきます。仮設住宅での不便さ解消のアイデアを私たちに聞いてきたりして下さいます。釘などが使えず、物資も豊富なわけではないので限りがありますが、私なりにアイデアを提供しています。私のこの派遣の目標の「アイデアの提供、元気のおすそ分け」は今のところ毎日一個づつクリアできています。

長々となってしまいましたが、とりあえず今日までの動きと感じたことをまとめてみました。関東は台風が過ぎたと聞きました。こちらは特に大雨になることもなく小雨と曇り空で終わりました。これから、台風の多い季節。テントでやっている青空サロンはどうなるのかと對木君や、常連の方とお話しています。

先日、陸前高田高校の仮設集会所にできた常設のサロンは、電気も水も屋内の状況も確保できているようです。青空サロンの今後の心配です。

では、また報告させていただきます。

菅原所長より

涌井さん、メールありがとうございます。頑張っていますね。いろんな情景が目に見えます。きっと、被災地に行くと決めたこと自体ですでに成長しているのでしょう。焦らずに、遠慮せず、被災地の方々の次の要望に耳を傾けて少しでも次の手が打てる土台への発信をしてきてください。では、体調管理しっかりしながら残りの任務を楽しんでください。

災害派遣職員レポート

No.44 H23.7.25

陸前高田竹駒地区で活動している 中心荘 對木職員の報告

今日は、13時34分に震度5の地震が宮城県沖で起こったらしく、サロンで大きな揺れがありました。サロンに来ていた子供達を広い場所に集合させてしゃがんでもらい、安全を確保。また、サロンに来ていた利用者さんにもその場にしゃがんでもらったりして、安全を確保。揺れが収まった後、仮設住宅間の通路を周り、怪我人の有無・安否確認を声をかけて確認。サロンに来られていた方々に一度家に戻っていただき、家族の安否・家の様子を見てきていただくよう促しました。（私はサロンで子供達の見守りをしていました。涌井さんとボランティアセンターの方の人と周って貰いました。）特に怪我人等はなく、全社協・市社協に連絡をとりました。

私は、地震が来たとき動きが止まってしまい、涌井さんに指示を貰いながら動いていました。次は上記の動きができるよう心がけて動いていきます。次に来る人は緊急時マニュアルをよく読んで来られるといいのではないかと思います。緊急時に置ける自分の未熟さを感じました。次はもっと自分から動いて、連携した動きが出来るように頑張ります。

三浦副所長より

報告、ありがとうございます。社協、ボラの皆さんの迅速な判断と行動で、サロンの方たち、仮設の方たちの安全が確保され、けが人もなく良かったです。宮城県では7月の中旬にも震度4の地震がありました。まだまだ不安定です。気を抜かずにつつ起きても動きが止まらないよう、自分でシミュレーションしておきましょう。

それから、皆さん地震や津波で多くのものを失ってきました。この地震によって精神的に不安定になってしまわれる方もいると思います。見守り・安否確認の際に、引き続き注意して見て行って下さいね。

對木さんの活動期間はあと少しですが、もう一度気を引き締めて、よろしくお願ひしますね。

災害派遣職員レポート

No.45 H23.7.28

陸前高田竹駒地区で活動している えびな北 安斉職員の報告

土曜日に出発して、昨日、涌井さんたちと申し送りを行いました。本日から、本格的に活動を始めました。聞くと見るでは大違いで、簡単にニーズなんて聞き取れるものではないです。本音なんてそう簡単に私たちに話せないですよ。

サロンは、決まった方が集まりますので、サロンに来ない方の困っていることに何かできないかと思って個別訪問しました。仮設住宅は日よけも無くて日差しが玄関・キッチンから差し込んでいました。

そこで思いついたのがえびな北で作った段ボールカーテン（居室のすだれ代わりに段ボールで作ったカーテン）です。2戸のお宅にさっそく作ってみました。

日が差さない。暗くなったと言われましたが、日差しを遮ることができたので暑さ対策になったと喜んでいただけました。

一番喜んでいただけたのが、お金がかからないってことでした。針金ハンガーでフックを作って窓の外側からかけ、付け外ししやすくしました。扱いやすさも喜んでいただけたようです。

さっそく、もう1戸のお宅からリクエストがあって、明日作りに伺う約束をしました。

何とか、こんなことをしながら被災地の方のお役に立てるように頑張って活動します。

菅原所長より

明るく元気な声で話してくださいました。安斉さんの行動力が素晴らしいです。また、えびな北の段ボールカーテンが被災地でも受け入れられたことが嬉しいです。

災害派遣職員レポート

No.46 H23.8.8

陸前高田竹駒地区で活動している 中心子どもの家 下鳥職員の報告

お疲れ様です。このたびは、この様な機会をあたえていただきありがとうございます。精一杯頑張ってきて来ます。

今日は、午前中、安斉さんと高島さんが最終日であることを知っている方たちが、多数サロンに来てくださっていました。2週間仮設住宅の方たちと良い関係作りをされたようです。

午後は、仮設住宅の方たちを訪問してごあいさつに回りました。

曾我所長より

下鳥さんは、配属後で早速、被災地への派遣ですが、初日から精力的に活動に励んでくれています。

災害派遣職員レポート

No.47 H23.8.13

陸前高田竹駒地区で活動している えびな北高齢者施設 平野職員の報告

お疲れ様です。遅くなりましたが活動報告です。初日から現地の方々はとても暖かく迎え入れてくださいました。現地の方々の優しさにこちらの緊張も解け元気いっぱい活動をしています！！

昨日は銀河ネットさん（学生ボラ）が企画した「かき氷大作戦」を決行。そこに、職能さんが持ってきて下さった大きなスイカ。今まで見たことがないお子さんやご年配の方も集まり、大盛況に終わりました。

課題としては毎日何かしら出てくるのですが、昨日はT-ACTという団体が戸訪問をして、現地の方に話を詳しく聞いているのがわかりました。T-ACTさんに話をすると、仮設全体のニーズだけではなく、個別の家庭内のニーズの把握に努めていました。

たとえば、環境もそうですが、虐待につながるケースや児童の心のストレスからくる食欲の低下まで多種にわたって聞き取りをしているようです。

私たちが運営している青空サロンの中だけでは聞き取れないような内容のものを把握されてきました。社協や・包括、場合によっては警察に介入してもらわなければならないケースとして情報を頂けるようにT-ACTと接点を持っていき、情報を教えていただけるように交渉する予定です。

色々な調査団体が来ているようですが、情報を1か所に集めることができるような関わりを持っていければと思います。

訪問係の方々、課長・所長、陸前高田に派遣をさせていただきありがとうございます。

本当に来てよかった。被災者の方々にあえてよかった。上記のこともありますが、被災地の方の笑顔を見ていると、人の強さを感じることができます。

すでに4日たってしまいましたが、残りの日数もできる限りのことをしてきたいと思います。お疲れ様です。このたびは、この様な機会をあたえていただきありがとうございます。精一杯頑張ってきました。

菅原所長より

陸前高田市の平野係長からメールがきていました。中心子どもの家の職員さんと一緒に活動しています。平野係長も低学年・年中のお子さんがいることで視点がお子さんに向いています。幅広い支援をしていく必要があります。まだまだ、情報の共有ができていないことが伺えます。中心会チームには、いろんな団体と効果的な関わりができるように頑張ってください。

災害派遣職員レポート

No.48 H23.8.16

陸前高田竹駒地区で活動している 中心子どもの家 下鳥職員の報告

お疲れ様です。お盆ということで、仮設にも東京や、静岡などからご親族がたくさん来訪されています。仮設の中には知的に発達が遅れている子がいて、お母さんもなかなか出てこれないのですが、声をかけてその子の面倒を見てあげている間に掃除等の家事をやってもらいました。私の仕事だったか疑問ではありましたが、仮設の方々が喜んでくれればと、色々なニーズにこたえてあげられればと思います。と言いながらもう滞在の半分以上過ぎてしまいました。まだまだ修行が足りないなと思う今日この頃です。

曾我所長より

陸前高田で活動している下鳥さんからの報告です。自ら何ができるかを見つけて頑張っているようです。

陸前高田竹駒地区で活動している えびな北高齢者施設 平野職員の報告

おはようございます。こちらは仮設の皆さんが暖かく迎えてくださるのでとても楽しく過ごしています。仮設のほうは生活も落ち着いています。

皆さんの話をきくと、もちろん物資はありがたいけど、これからは心のケアが必要なのが伝わってきます。また、様々なイベントがあるとうれしいけど、静かに生活をしたいという方もいるようです。

様々な葛藤を持ちながら生活をされていることが伝わってきます。私たちは、必要とされていることを手伝えること、また、個別訪問を中心として活動を続けていきたいと思えます

T=ACT さんとの話し合いには川井先生が参加され、虐待等の問題はないようだとのことでほっとしました。今後もそのような目を持ちながら、川井先生と相談しながら行っていきます。

現在色々な団体が仮設内に入っており、情報の一本化が難しい状態です。それは社協も課題としているようです。

訪問係りの皆さんへ、お疲れ様です。こちらは1日1日があっという間に過ぎてしまい、楽しく過ごさせていただいております。ただホテルが遠いのが難点ですが・・・。

そちらはいかがでしょう？順調にスケジュールは進んでいますか？ヘルパーさんたちはけがや体調崩していませんか？体調管理はしっかり行ってくださいね。

菅原所長より

被災地の方々の生活がいろいろと変化してきている様子です。一見落ち着いて見える状況に危うさがあるということに、被災地で活動している団体それぞれが気付きかかわっている段階なのでしょう。

被災地では衣類が不足していると、前派遣チームの安齊職員から報告がありました。具体的に何が必要なかを現地に居る職員に確認してもらって、中心会から必要とされている衣類を送ることができないかと検討して行こうと考えています。その時は、職員の皆さん、ご協力をお願いいたします。

災害派遣職員レポート

No.49 H23.8.22

陸前高田竹駒地区で活動している 中心子どもの家 小林職員の報告

こちらに来て4日目になりますが、雨が降り続いています。寒いです。

私たちがやっていることは、仮設住宅と同じ敷地にある青空サロンの運営です。

小学生は夏休みが明けて平日は学校があるので、高齢者の方がサロンに顔を出して話す機会が多くなっています。

引き続き、サロンの運営と、少しでも住人の不安感をなくせるように努めていきたいです。

曾我所長より

陸前高田で活動している小林さんより報告がありました猛暑から一転、雨と共に寒さが続く中、元気に頑張っています。

災害派遣職員レポート

No.50 H23.9.12

陸前高田で活動していた、えびな南高齢者施設 八巻職員の報告です。

お疲れさまです。活動報告が遅くなりまして申し訳ありません。

陸前高田での活動は明日で終わりです。ここまで来ると非常に短かった 2 週間だったと感じます。初日から 10 日連続で雨に遭い、半袖では寒い日もありました（あまりの気温差にパーカーを買いました）。私たちは、前任の下鳥・平野チームから青空サロンの運営を引き継ぎました。

平時のサロンはお茶飲み会などとして地域の住民が交流を持つのにに対し、青空サロンでは災害時のサロンとして住民主体ではなく社協がきっかけを作っていくものです。その第一の目的は、仮設住宅の住民の孤立を防ぐことです。サロンがスタートし 2 か月が経っています。住民への認知もほぼ 100% 広がっています。そんな中で、仮設住宅の生活で生じる課題を見つけていくことを目標にしました。

サロンへ積極的に来ていただける方はそこで普段の様子を確認できます。お話し好きな方が多くいらっしゃいます。しかし、そこだけの対応では全体が見えません。戸別訪問を行い、住民の状況、意向などを確認していきます。それがメインの活動です。

仮設住宅の中には、一般的な地域にあるような世帯がそのままあります。高齢夫婦世帯、独居世帯、子育て世帯などなど。仮設住宅が自分所有の家(土地)ではないことが最大の違いです。それゆえ自分のしたいことへ抑制がかかります。そう感じたのは「したいことも自由にできない」という住民の言葉です。「できない」のではなく「しない」という気持ちが垣間見られます。震災に遭い、仮設住宅という環境に移り、何かを与えられることが多くなった状態です。様々なことがマイナスな思いにつながっているように思えます。

前向きに考えようという方々もいらっしゃいます。大津波ですべて流れるという壮絶な光景を目の当たりにして、どうしようもない気持ちを自分の中に落とし、楽しく生きようと語っていただける方もいます。

そうした方々もサロンへお誘いすると、何気ない世間話や、震災時のこと、家族のことなど多くを語っていただけます。サロン内で、お互いに困ったことなどを打ち明け合う場面も多くみられました。サロンは「外に出る」「気持ちを言葉にする」「情報を共有する」場として、なくてはならないものになってきました。また、戸別訪問をすることでサロンへの参加を促すこともできました。

サロンへは、ご年配の方々と子どもたちが主な参加者です。実はこの世代間は犬猿の仲になっています。この世代間の融和も、仮設住宅内の関係作りの課題です。

今後9月中旬より社協の生活相談員(新規採用15名)が私たちの活動を引き継ぎ、サロンは縮小の方向に向かいます。しかし、住民からは「寒くなっても続けてほしいわ」と現状維持を願う声もあります。サロンは元々小学校の校庭を使っています。社協、小学校、住民の間での調整が必須となってきます。

住民のみなさんとは、本当に馴染んできた頃でのお別れです。明日で私たち2人の活動は終了してしまいますが、これまでの活動が継続・発展できるように引き継ぎを行います。

長くなりすみません。残りの時間やれる限りのことをやってきます。

引き継いで、陸前高田で活動するえびな北高齢者の三浦職員の報告です。

本日、陸前高田に入りました。

今日は前任者との引き継ぎ、仮設住宅の住民の方や川井先生をはじめとする現地のスタッフ方への挨拶だけで1日が終わってしまいました

まだ仮設住宅の住民の方の様子もよくわからない状況なのでまずは記録を見たり、サロンの利用者から話を聞いたりして、できるだけ状況を把握出来ればと思っています。

報告が遅れてしまい、申し訳ありません。

ケアマネの皆様へ

ご迷惑お掛けしています。

忙しいところ送り出して頂き、ありがとうございました。

何か困ったこと等、ありましたら御連絡ください。

上記の三浦職員と共に、陸前高田で活動する中心荘の佐藤職員の報告です。

お疲れ様です。活動報告です。

今までの形での青空サロンは10日で終了。その後は仮設住宅の住民の方でできる範囲でサロンを運営していく方向で話が進んでいるようです。

今日も、震災時の話が頻繁に出てきました。津波からどのようにして逃げてきたのか、避難所での生活についてそれぞれお話していました。以前の高田松原の写真を持ってきて、どんなにきれいな場所だったかも教えてくださいました。

「震災でおかしくなってしまったようで、今でも悪い夢を見る」という方もいらっしゃいましたが「ここ(サロン)に来ると震災の話ができる。話をするだけで少し楽になる。こういう場所があって良かった」とおっしゃっていました。

昨日、今日は、以前にも2回来たことがあり、青空サロンのお手伝いもしてくれていたという方がボランティアでいらっしゃいました。

前回参加された7月の終わり頃と比べ、住民の方同志の会話が増えている、震災の話がよく出てくるように感じるとのことでした。

あと少しで中心会が関わるサロンの運営も終了ということで、「このサロンがあつて本当に助かった。」「来てくれるだけで本当にうれしかった」と今まで派遣された職員に対する感謝のお言葉もたくさん頂いています。また、「直接来ていない方にも感謝している」とおっしゃっていました。

明日も引き続き青空サロン運営、戸別訪問を行っていきます。

住民の方の中で大切な存在になっているサロンがこれからも良い形で継続できるようにお手伝いしていきたいと思えます。

浦野理事長より

いよいよ、最終ステージも幕を閉じようとしています。

この半年の間、多くの職員が献身的に頑張ってくれました。また、現地へ赴いた職員の留守を守って、すべての職員が頑張ってくれました。

あらためてすべての職員の皆さんに感謝します。ほんとうにありがとうございます。